

“復活！九大跡地で農業を”プロジェクト

1. はじめに

九州大学箱崎地区は平成 17 年度より伊都地区への移転を開始し、平成 31 年度には完全に移転が完了する計画となっている。

近年、農業への関心は、退職者や若者など、幅広い世代で高まっている。また、ユニバーサル農業という考え方は、障がい者の雇用・就労訓練施設等での自立支援・就労後の育成への取り組み、高齢者の生きがいづくり、教育・保育機関における児童・幼児等の農業・園芸活動、市民農園など共同作業を通じたコミュニティづくり、農業を通じた心身の健康や豊かな環境づくりなど多機能な面をもつ。

また、もともと九州大学箱崎地区の土地は、「博多ネギ」「博多キュウリ」「博多長ナス」など、“博多ブランド”の野菜が生産され各地に送られた日本三大蔬菜の産地に数えられた農地であった。

九大跡地利用 4 校区協議会がまとめた「まちづくり計画」に追加する形で、新しい形を持った農園を提案したいと思う。

2. 概略

- 時期 : キャンパス移転後
- 場所 : 九州大学箱崎キャンパス農学部跡地の一部
- 参加者 : 自治体、NPO、ボランティア、住民など



図 1

3. コンテンツ

農園は様々な人が利用できるように園内に人々が集う施設、広場、直売所、Café を併設する。



図 2

Cafe,直売所...熱帯農学研究センター



交流施設...生物環境利用推進センター



図 3

周辺の農家の方や専門家を呼び、学校の生徒・児童向けに農業体験の実施、農園利用者、農業に興味のある方に教室を開催する。

NPO 法人やボランティアが農園の管理をし、利用者向けに毎日写真を撮って web ページに生育状況をアップしたり、カメラを設置して、生育状況をリアルタイムで観察したりできる。

障がい者の方が、販売する作物を生産、直売所・商店街で販売、Café での業務などを行う。

地域の飲食店や商店街と、収穫した作物で、コラボレーション商品を作り販売する。

交流施設には調理設備、多目的室、入浴設備を持つものとし、また、食糧や飲料水を備蓄し災害時

の緊急避難場所にもなる。

広場は防災公園としての機能を持たせ、ソーラー発電を使った照明、炊き出しの出来るかまどベンチ、マンホールトイレなどを設置する。

- メリット

農学部の農地、既存の施設を利用すること（図 3）によって低コストで、整備ができる。

近くに福岡市営地下鉄貝塚駅、西鉄貝塚駅があり、天神から地下鉄で約 10 分と、交通の利便性が高いため、周辺住民だけではなく、都市部の人々の利用が見込める。

農園利用者が笠崎宮を中心とした地域の行事やイベントに参加することができる。

近くに遊戯施設や四季の花が観賞できる貝塚交通公園があるため、家族連れの方でも農園を利用しやすい。

農園がコミュニティの場となり、それを通じて人と人との間にネットワークが形成され、災害時に、住民同士が助け合って避難することができ、被害が減少すると考えられる。

- その後の展望...

新たな J R 駅新設（図 4）

現在の J R 駅は現地からは遠いため、イベント時や、日や時間を限定して開設する駅を新設する。新設駅と貝塚駅をむすび、交通の拠点とする。

動く歩道の設置（図 5）

貝塚駅から農園までの動線をよりよくし、高齢者やベビーカー、車いすなどを利用して来る方のために、動く歩道を設置する。また、大きな荷物を運搬する方々にも便利になる。



図 4



図 5

4. 課題

まず、NPO法人、ボランティアの人員確保が必要である。このような取り組みをしている団体にノウハウを学んで、運営ができる体制が必要である。また、このプロジェクトに協力する農家のかたが必要だ。次に、生産物を選定すること、そして、生産性の確保である。レベルに応じて作業をするとともに、生産性を確保し、販売できる体制を整えなければならない。

5. 参考

- ・福岡市 九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン